

音楽とアロマセラピーによる五感刺激の有効性～唾液アミラーゼによる評価～

小山 令江¹、岩間 かおり¹、及川 智美¹、中村 智之¹、村上 則恵¹、早川 洋子¹、長嶺 義秀²、川熊 のぶい³、藤原 悟⁴

¹広南病院東北療護センター看護部、²広南病院東北療護センター診療部、³広南病院看護部、⁴広南病院脳神経外科

【目的】人間の感覚は「五感」という言葉で表されるように常に複数の感覚機能を働かせることにより外部を感知している。当センターでは五感刺激を取り入れた看護を行っており、今回は日頃より行っている音楽とアロマセラピーに焦点をおき、その有効性について検証した。【対象・方法】対象は当センター入院中の自動車事故による頭部外傷後の遷延性意識障害患者で脳磁図上聴覚の確認された患者11名。市販のリラックス効果のある音楽CDを聴きながら付属のブレンドされたアロマオイルを2～3滴コットンに垂らして枕元へ置き、芳香浴を昼と就寝前に5ヶ月間実施。オイルがブレンドされている為好みに合わない等の理由から、データにばらつきがあり評価に至らなかった。対象を嗜好を伝えられ、嗅覚も温存している患者5名に変更。アロマオイルも日本人が好むといわれる2種類のオイルを単独で使用し、芳香浴を5ヶ月間実施。観察項目：安静時、日中の活動時および、芳香浴時のバイタルサイン、フェイススケール、心電図モニター、唾液アミラーゼ値を測定。【結果】1)安静時および芳香浴中のバイタルサイン、フェイススケール、心電図モニターに変化はなかった。2)唾液アミラーゼは日中の活動時に上昇があったのに対し、安静時、芳香浴時ではほぼ同じ値であった。【結論】唾液アミラーゼが活動時に上昇したのに対し、芳香浴時に著明な唾液アミラーゼ値の上昇がなかったのは、アロマセラピーが不快ではなかったと判断され、遷延性意識障害患者に対する音楽とアロマセラピーによる五感刺激は有効だったと考えられる。今後も五感への働きかけとして積極的かつ継続的に取り入れていきたい。